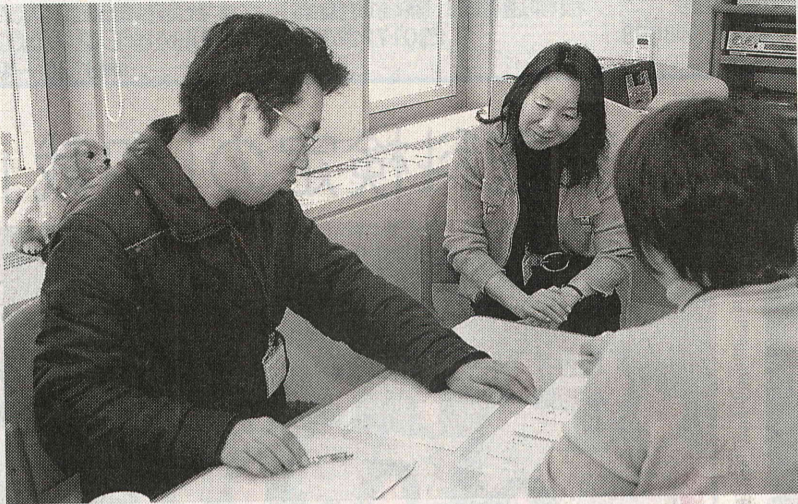


青森市の会社役員ら男女四人が企画した、求職者向けのスキルアップセミナーが二十三日、三カ月間にわたる全日程を終えた。人員が目標数に届かないなど課題は残ったが、受講者は自らの変化を感じ、手応えを感じた様子。四人は「いろいろなドラマがあり、企画してよかった」と受講者と喜びを分かち合った。



高橋さん(右から2人目)ら民間人4人が企画・運営したセミナーは、受講生が自らの変化を実感するなど、一定の成果がみられた

# 自ら変化実感 受講者手応え

## 青森・求職セミナー修了 企画の市民も満足

セミナーを企画・運営したのは、「まちづくり」という理念を持ち意気投合した、同市の会社役員阿部吉平さん、林均さん、柳谷鈴江さん、会社員高橋一枝さんの四人。「受講者が自ら考え、変化をつかみとる」を主眼に置き、セミナーは十一月十日の合宿を皮切りに、全三回開かれた。

当初は、うつむき加減に小さな声で話していた受講者も、相手の目を見て、生き生きと話すようになったり、積極的に就職活動したり、職に就いたり、次第に変化が見られるようになった。

講師を務めた大阪市の人材育成支援会社の川端美智子、森野和子両代表は「変化が見えた目で分か

り、前向きになった」と成長を喜ぶ。

参加した十和田市の男性(三三)は「最初は不安だったが、自分を変えようと思えるようになった」と振り返る。男性は今年に入り、ひざの持病を手術した。「このまま放置したらだめだと思い決意した。セミナーに参加しなかつたら手術しなかつたでしょうね」

受講者が目標数を大きく割り込むなど課題も残ったが、四人の挑戦は始まったばかり。林さんは「課題をしっかりと分析し、次に生かしたい」と意欲を示す。

高橋さんも「数字に表れるような結果が出せなかったかもしれないが、方向性は見えた気がする」と前を見据え、笑顔で語った。

〈東奥日報〉2008年2月27日掲載記事